

文化祭&夏休みの活動特集



秋に口ずさみたくなる童謡に『小さい秋みつけた』がある。サトウハチローの作詞である。「原稿用紙を前に布団に腹這いになり外を見ていたら、赤くなったハゼの葉に言い知れぬ秋を感じて」書いたそう。父の女性関係から母が家を去り、稀代の不良少年と呼ばれるほど放埒(ほうらつ)を繰り返したようだ。それでも人生が破綻しなかったのは、亡き母への追慕・憧憬が心の隅にあったからだと言われている。歌詞からは想像できない人生。本校の校歌の作詞者でもある。彼の死後、記念館は妻の出身地・北上市に移転。庭にあった赤く色づくハゼの木は近くの公園に移植された。

学校長 梅田 功

同窓会 総会



名鉄ニューグランドホテルを会場に、57回目を迎える同窓会総会を開催しました。回を重ねるごとに、多くの方に参加していただくようになり、今回は約240名の同窓生とお世話になった先生方にお集まりいただき、盛大な総会となりました。

会計報告などの議事に続き、おいしい食事を交えたパーティーは、世代を超えた同窓生の笑いが絶えない時間となりました。

同窓会は、毎年8月第1日曜日に同窓会総会を実施しています。来年の総会は、8月5日(日)に実施予定です。3年生のみなさん、来年の同窓会総会でお会いできることを楽しみにお待ちしております。(同窓会幹事一同)

「同朋オープン・フォーラム2017」にぜひご参加ください

今年も、生徒・保護者・市民・教職員の四者で「教育・学校づくり」を考え、話し合う「同朋オープン・フォーラム」を実施します。昨年度末から何度も打ち合わせを行い、準備を進めております。

今年は「頼りになる仲間 同朋ファミリー〜語り合おう、無限の可能性(みらい)〜」をテーマに開催します。2015年に、公職選挙法が改正され、18歳で選挙権を持つようになりました。選挙権を持つということは、社会に対して責任が生まれるということです。

家庭で、学校で、何ができるのか。本校の授業実践などもご覧いただきながら、一緒に考える機会としましょう。10月4日(水)2〜5限に行われた「わくわく公開授業」を受けての「分科会」意見交流もあります。詳しくは別紙をご参照ください。(実行委員会事務局/宮城 道良)

日 時：2017年11月18日(土)9:30~12:30
開 催 場 所：本校 多目的ホール ほか
スケジュール：①全体会
②分科会
・未成年の主張
・進路を自ら切り拓く
・わくわく公開授業
(授業を終えての意見交流)
③全体会(まとめの集会)

Schedule 《行事予定》

11月	
8 水	生徒会立会演説
11 土	第2回学校説明会
12 日	珠算電卓検定
18 土	同朋オープンフォーラム
24 金	報恩講
26 日	ビジネス文書検定
28 火	学園研鑽日
29 水	期末考査(〜12月5日)
12月	
2 土	第3回学校説明会
9 土	PTA常任委員会
15 金	修学旅行1回出発(〜18日) 2,3回代休・午前授業(〜20日) 1年生DV講演会
16 土	修学旅行2回出発(〜19日)
17 日	修学旅行3回出発(〜20日)
19 火	1回代休
20 水	3階マナー・身だしなみ講座 1,2回代休
21 木	終業式
1月	
9 火	始業式
10 水	音楽科第49回卒業演奏会
17 水	見真の日
19 金	英語検定
20 土	進研模試
21 日	情報処理検定
22 月	3年生卒業試験(〜25日)
27 土	PTA常任委員会・学級懇談会
28 日	簿記検定
2月	
2 木	推薦入試
4 日	商業経済検定
7 水	午前授業(入試準備 大そうじ)
8 木	一般入試
15 木	午前授業
16 金	卒業式リハーサル
17 土	卒業式
19 月	2回午前授業
20 火	2回学年末考査(〜26日)
27 火	午前授業

2017年度 秋の「助成金拡充申請」活動について



今年度も『オータムフェスティバル(地域別県民文化大祭典)』を県下39会場で開催しております。それぞれの会場で県議会議員さんにご登壇いただき、愛知県や市町村の「助成金拡充申請」についてもご理解をいただいております。

本校では責任・担当会場となっている12会場を中心に、生徒、保護者、卒業生とその保護者、本校教職員、また他私学関係者や市民とともに、準備・運営を進めております。

同朋学園助成金推進協議会としても、今後開催される11月18日(土)の同朋会場(名古屋中村会場/メインゲスト：オペラ歌手 百々あずさ氏)をひとつの大きな結節点としながら、さらに大勢の方のご理解を得たいと考えております。

今後も、12月の愛知県議会にて審議される「助成金」採択に向けての活動、ひいては2018

年度以降の私学教育を左右する大切なフェスティバルが続いていきます。「私立高校無償化」「教育の公平」実現のため、「オータムフェスティバル」へのご参加、助成金拡充署名へのさらなるご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、オータムフェスティバル運営協力券の普及、これまでの会場への参加・運営・準備など、多くのお力添えをいただいておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

(同朋学園助成金推進協議会/坪内 翼)



‘17年度文化祭



本年度の文化祭は「Global+」世界の中の日本日本の世界」をテーマに、世界と日本の関わりを中心に考えました。このテーマに込められた想いの一つとして、「多様性の理解があります」。

現在の日本社会は多くの国との関わりの中で成立しています。国内でも多くの海外の方、さまざまなルーツを持つ方、多様な人々によって成り立っています。そんな現代を理解してほしい。そして、多様な人々と共同で社会を、世界を作り上げてほしい。そんな想いが込められています。

また、多様性という文化では学校のクラス内でも変わりはありません。文点登のクラス企画を進めるにあたってはクラスメンバー間の違いが見えたと思ったりします。口ばかりで進められない子、この作業はかきやる子、すぐに部活に行ってしまう子など、さまざまな生徒がいます。違いがありすぎてお互いに理解できなく、うまくいかな期間もあつたかと思えます。でもそれを超え、みんなに状況を伝え、上げ、一つの部分にもこだわらず、切つクオオリティをお互いの連の中のものとして、こころをやりとり、晴らしいクラスとなつたかと思えます。

最後に多くの生徒、実行委員、協力クラブ、教員、保護者、業者など多くの人ががんばりと協力、で無事に文化祭を終えることができました。本当にありがとうございました。

文化祭 受賞クラス一覧

アカデミー賞（学年・部門別最優秀賞）

3年生	演劇部門	303	夢から醒めた夢
	パフォーマンス部門	312	Love like a Shadow
2年生	同朋ミュージアム部門	209	日本温泉物語
1年生	創造・つくる部門	112	Music Toy Truck♪

ベストクラス賞（来場者による投票）

2年生 同朋ミュージアム部門 207 食品サンプルミュージアム
1年生 創造・つくる部門 101 USD101～バンブーコースター&二面壁面～

3年アカデミー賞・演劇部門
これが報われたということ…
演劇部門アカデミー賞は303！

私たち3組は「夢から醒めた夢」という演劇をしました。最初はキャストも全然決まらず先に進めない状態でした。私は脚本と演出を担当することになったのですが、正直演劇のことはほとんど

高 敦子 (名古屋市立高杉中学校出身)
 ど無知だったので、舞台監督の子
 にはいろいろと迷惑をかけてしま
 いました。私は演出としてクラス
 で何ができるかを考えました。そ
 して放送部でやっていた発声練
 習や脚本作りを活かそうと思いつ
 きました。

クラスをまとめるのは本当に大変で、誰一人喋らない空間をつくるには、一人ひとりの協力がいることを思い知りました。けれど、3組はやる気を出すというすごい団結力があります。他のクラスにながれ3組だけの強みだと思います。逆に3組の弱点は、楽観的だったたところと少し油断し、だらけてしまった所がありました。リハ・サルでは問題が発生し、不安が残って終わってしまいました。でも心配しませんでした。本番当日の雰囲気はみみも緊張感のある良い表情でした。円陣を組んで気合を入れた時には、その不安は消えていました。「3組な大丈夫」そう思い、私たちは全力で自分たちの演劇をしました。そして念願だったアカデミー賞をいただくことができました。本当に嬉しかったです。3組でよかった心の底から思いました。これが報われたということなんだと感じました。このアカデミーは3組のメンバー一人ひとりがいなくては絶対に獲られませんでした。だからみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。見て

くれた人から「感動した」「完成度が高かった」と言ってもらったり泣いてくれた人がいたりして、ものすごく幸せな気持ちになりました。そして私たちは堂々とみんなの前で再演をしました。

この文化祭を通じて、仲間と一つのものをつくる難しさ、楽しさ、達成感を知りました。この先、誰かと協力して何かを創る場面にあった時、今回のことを思い出して、誰かのためにという気持ちや忘れず、最後までしっかりとやり遂げたいと思います。

す。ペンキや材料が足りなくなつた時、文句を言わずに買いに行つてくれた人たちもいました。誰か一人だけが頑張つても成功しない、みんなでやるからこそ成り立つ文化祭なのだと、昨年よりも実感しました。

アクシデントを乗り越えて

（はじめてのクラスとしての文化祭）

初めての音楽科のクラスとして、の文化祭参加。高校生最後に312のみんなと一つの作品を創り上げることができ、幸せだったと感じます。

影絵でオリジナル作品を創ろう。」と言い、夏休みに入ったものの、外部講師の方を呼びつた夏休み最終日当日に、影を写すスクリーンが完成。思うように人が集まらず練習にならなかったりと困難はたくさんありましたが、外部講師の方にアドバイスをいただき、全体の形が見えた時、この先がとて楽しくなりました。

文化祭2日目、体育館舞台本番。リハサルのときから、「手伝ってくれる人・観に来てくださった方への感謝」にとみんなが言った「よろしくお願いします」。ここから私たちの25分間が始まった。「バミリ無し・「5分程度」でセテングを終えられたのは、3週間て紡いだ絆とチームワークのおかげだろう。

影アナが流れ、幕が上がる。私たちが笑い声・音楽と共にスクリーン前を通り過ぎると、主役とヒロインの登場。私自身は「三役の切り替えと背景などの担当」と見たスクリーン。「我ながら良い脚本を作るじゃない」と自画自賛。そして「一番好きなシーン」……

突然視界が真っ暗になった。何が起ったかわからず、立ち尽くしていると、電球が玉切れを起こ

3
1
2
川瀬

百華

百華（名古屋市立御田中学校出身）

「影絵のなかに、影絵の色が映らないのを……照明担当の人が代わりのライトを出してくださったから、音を止めないでくれた。私は『動いて』と言うことしかできなかったので、再開はできたけれど、大好きなシーンを見せられなかったって、なんでも今日なんでこっぴどく叱られて泣いた。」

悔しくて泣いた。

演出が終わった後、「電球が切れて思い通りにできなかった」と友人に伝えると、予想外の返答。『やっぱりトランプだなんだ。でも、気が付かなかった。そんなシーンなんだと思つた』と。通し切れた演出を、知っているから、一瞬でも止まつてしまつたことは悔しかつたけれど、初めて見る人々には、クラスの間頃の臨機応変な対応のおかげで、「演出なんかとも」とタマすことができたのだと知つた。

12年の2年間は文化祭の思い出と言えば文化祭からかけ離れたものばかり。でも、最後の文化祭 みんなのおかげでトラブルにも負けず、アカデミー賞をいただくことができ、再演では完全なパフォーマンス・本番以上のパフォーマンスができた。

3年間、お互いを知り尽くしてきた、家族よりもたくさんの時間を過ごしてきた312のみんなを、私は誇りに思っています。最高の時間をありがとう。

たくさん
の問題を
乗り越え
て

209 高川

文化祭最終日、「2年生アカデミー賞2019」と発表されました。ですが、私は内心自分のクラスが賞を獲得することができていると思いませんでした。なぜなら、他のクラスの作品がどれも良く、内装も外装も立体的で空間の使い方が上手だったからです。

209の「日本温泉物語」を作るにあたって「どのようにつくられてくれた人が温泉を体験できるかを一番考えたい」「飲む温泉にしよう」などの案が出ていました。しかし足湯は、お湯の交換や温度を保つにはどうすればいいかという問題、飲む温泉は衛生面での問題から飲むことができないこととなり、すべて考え直しとなりました。そんなときに浮かんだのが、お湯を使わないため簡単に、お湯の交換ができません。もともと、温泉クイズの景品として入浴剤を渡すという話になって、浴剤を使用して入浴剤数種類の使用して手湯を体験してもらったことにしました。

外装は色々な人に案を出してもらったのですが、温泉と言ったら映画「千と千尋の神隠し」に出てくる「油屋」だという話になり、これをメインにして外装を作りました。

内装も外装も、それぞれ中心となつて案を出したり作業をしてくれた人がいま





Music Toy Truck♪ 1年アカデミー賞・創造・つくる部門

112 石川 碧 (名古屋市立神沢中学校出身)

私たちのクラスは、デイズ丁の世界観を教室に表現しました。展示だけではなく、音楽科ならではの楽器による生演奏、生歌、ダンス、パフォーマンスを取り入れました。また、お客さんにトロッコに乗ってもらって宝探しとシューティングゲームをしながら進むという体験型にしました。教室の使い方をアイデアはどんどん膨らんでいきました。一人ひとりの役割も決まり、好調な出来事でした。ところが、夏休みに入り、いざ作業が始まると、なかなか人が集まりませんでした。集まっても、何も進まずに終わる日も多かったです。思うようにならないことへの苛立ちから言い争いになったりしました。一つの目標に向かう時、やはり温度差があります。今思うと、指示する側の伝え方が悪かったと反省しています。私はお互いの気持ちを思いやるのが大切だと気が付きました。それによってみんなのやる気も上がっていき、制作ペースも上がっていき、前日までやるのが山積みで仕上げていくのが大変でしたが、反省を生かし、うまく声掛けができたと思います。

文化祭当日、最初のお客さんは同じ群団の先輩でした。鳥肌が立ったと言ってくれ、すごく嬉しかったです。2日間とも廊下に行列ができました。皆さん笑顔で帰って行ってくれ、胸がいっぱいになりました。

「112」と発表された瞬間は、みんなの喜びの声が体育館に響き、思わず涙がふれました。今でも、デイズ丁の曲を聴くとあの時の気持ちがよみがえってきます。

私たちのクラスが同朋アカデミー賞を頂けたのは、ぶつかり合いながらも、お互いを支え合い、同じ目標に向かって努力し続けたからだだと思います。これからも多くの時間を共有する中で、皆さんの思い出を作っていきます。

文化祭感想

生徒実行委員長

201 村上 塁

(大治町立大治中学校出身)

みなさん、文化祭3日間お疲れ様でした。

今年の文化祭はみなさんにとつてどんなものになったでしょう。今年は天気にも恵まれとても楽しく盛り上がり文化祭になりました。

この文化祭の祭り、文化祭を成功させるためには、自分たち一人ひとりの力が必要であり、クラス、学年、学校全体の団結力が必要です。みなさんは、この文化祭を成功させる途中にどんな出来事がありましたか、どんなことに苦労しましたか、感じたこと、得たものは人それぞれだと思います。

この3日間感じたもの、得たものはみなさんにとって経験になります。この経験を1年生、2年生は来年の文化祭まで覚えていてください。3年生の先輩方は卒業してもこれから先も楽しい思い出だけでなく最高の経験として覚えていてください。

今年は、一人ひとりが主役だった文化祭になったと思います。

P.T.Aバザー報告

9月23日(土)、文化祭公開日にP.T.A四委員会(事業文化・地域懇・生活指導・学園父母懇・同朋・友の会)卒業生の保護者の会によるバザーが実施されました。

事業委員会の焼きそば、文化委員会の喫茶、地域懇委員会のから揚げなど、飲食物を扱う委員会では野菜の高騰や原材料費の値上がりしたものもあり、仕入れでの苦労があったと聞いております。こうした中、各委員会では仕入れを少しでも安くして、利益を上げようという努力がなされました。生活指導委員会でも、夏休み明けは例年に比べて品物の集まりが思わしくなかったため、再度、委員長から保護者へ物品提供のご協力をお願いすることになりました。その呼びかけにより文化祭直前に新たな物品が集まり、当日を迎えることができました。物品をご提供いただいた保護者の皆様に感謝いたします。

開催前日は雨が降り、天気が不安定でしたが、当日は汗ばむような天気となり、本校の生徒だけでなく、多くの外来者もあり、バザー会場は大賑わいとなりました。仕入れなど事前準備での各委員会のご苦労もあり、今年度の四委員会での収益金は合計で19万244円となり、昨年度の収益を上回ることができました。

P.T.A四委員会の収益金につきましては例年生徒の学校生活に必要な備品の購入等に使わせていただいております。今年度もその使途が決まり次第保護者の皆様にお知らせいたします。

文化祭バザーの後、本校の食堂にて、90名ほどの保護者と教員でバザーのお疲れ様会が開催されました。各委員会、各団体からはバザーの売り上げが報告され、教員からは各学年の文化祭にまつわるエピソードが話され、笑いあふれる楽しい会となりました。

P.T.Aの役員、常任委員の皆様にはバザーの準備から当日の運営、後片付けまでご協力いただき、本当にありがとうございました。皆様のおかげで今年も盛況のうちに文化祭バザーを終了することができました。

(総務部長/瀧 正範)



部活動

この夏、多くの部活動が全国大会へ出場するなど、活躍しました。

柔道部

平成29年度全国総合体育大会
柔道競技 73kg級 ベスト16

最高の舞台に立つということ

310 藤井 樹 (名古屋市立当知中学校出身)

私がこの全国大会に出るために心がけていたことは、毎日人から感謝されることをするということです。人にとって役に立つということは、私ができたという証拠になります。私は学校周辺や敷地内のゴミ拾いから始めることにしました。

なぜ私がそのようなことを心がけたかというと、試合で勝つためです。多くの人は、ただ練習をやっているだけ。中学生の頃の私もそのような考えでした。同朋に来て顧問の藤山先生は、人から感謝される人間でなければ強くはなれないと教えてくださいました。

私は、その言葉を信じ、ひたむきに毎日同じことを繰り返してきました。その結果が全国大会という最高の舞台へと導いてくれたのだと思います。全国大会では結果を残すことができなかったけれど、今までやってきたことに間違いはないと思うのでこれからも精進していこうと思います。

吹奏楽部

愛知県吹奏楽コンクール
名古屋地区大会 プライマリーの部 金賞

念願の県大会出場

301 富樫 百香 (名古屋市立豊国中学校出身)

今年、やっと吹奏楽部は県大会に出場することができました。県大会出場は私の1年生からの目標でした。しかし、1年生の時は銀賞、2年生の時は県大会に出場できない金賞でとても悔しい思いをしました。今年はその2年間の悔しい思いをバネにして頑張りました。また、今年は部長という責任ある立場だったので、誰よりも頑張らなくてはならないという思いでした。

私は県大会までの間、いろいろなことで悩みました。一番悩んだことは、部員全員の県大会に向けての方向性がなかなか揃わず、自分が部長としてどのようにみんなを支えていけばいいのか、ということでした。そんな時に私を助けてくれたのは、同級生のみんなでした。一緒に悩んでくれて、「もっと部員みんなとコミュニケーションをとって」というアドバイスをくれました。その他にも、悩んでいる話を聞いてくれました。同級生のみんながいたから私は部長として頑張ることができました。本当に感謝し、信頼している大切な仲間です。今回県大会出場するまでにたくさん悩み、プレッシャーに押しつぶされそうになった時もありました。けれど自分自身も部活としても成長できたと思うので、本当にいい経験をさせてもらえたと思いをこめて言えます。

柔道部

- 第71回愛知県総合体育大会
 - 男子90kg級 第3位 原田 秀平 (310)
 - 男子73kg級 優勝 藤井 樹 (310) 全国大会ベスト16
 - 男子60kg級 第2位 杉浦 冬唯 (304)
 - 女子団体 第2位 東海大会
- 全国柔道選手権大会
 - 男子73kg級 第3位 藤井 樹 (310)
 - 男子60kg級 第3位 杉浦 冬唯 (304)
 - 女子78kg超級 第3位 金田 綾 (306)
 - 女子48kg級 第3位 吉田 美森 (307)
- 東海69回東海総体
 - 男子73kg級 第2位 藤井 樹 (310)
 - 女子78kg超級 第2位 金田 綾 (306)
- 平成29年度国民体育大会 少年男子2次予選会
 - 男子73kg級 優勝 奥地 寛太 (306)
 - 男子60kg級 優勝 長谷 晃希 (203)
- 平成29年度国民体育大会 少年男子最終選考会
 - 男子73kg級 第3位 藤井 樹 (310)
 - 男子60kg級 優勝 杉浦 冬唯 (304) 全国大会へ
 - 男子60kg級 第2位 長谷 晃希 (203)
- 平成29年私学祭
 - 女子団体 準優勝 同朋A 第3位 同朋B
 - 女子個人 準優勝 宿院 麻帆 (210) 第3位 柿原 宮七 (204)

ラグビー部

- 第59回市民スポーツ祭ラグビーフットボール競技 準優勝

陸上部

- 平成29年度名古屋南北学年別陸上競技大会
 - 男子2年走り高跳び 第2位 奥村 集 (204)
- 私学祭
 - 男子包含投げ 第6位 奈木野 京介 (309)
- 平成29年度愛知県高等学校新人対校陸上競技大会 陸上競技名南支部予選会
 - 男子走り高跳び 第5位 奥村 集 (204) 県大会へ

吹奏楽部

- 愛知県吹奏楽コンクール名古屋地区大会 プライマリーの部金賞 県大会へ

乗馬部

- 第51回全日本馬術競技東海地区大会 団体 優勝 全国大会へ

書道部

- 熱田まつり全国献書大会 個人大賞 山崎 一慶 (111)



Club & Award News

乗馬部

第51回全日本高等学校
馬術競技大会 出場

また来年に向けて

309 宇佐美 和将 (津島市立暁中学校出身)



私は、小学校4年生の頃から乗馬を始めました。乗馬部に入部するまでは、馬に飼葉を与えたり、馬房掃除などの世話、乗馬クラブがサポートしてくれていました。そして、入部後はこのような世話を含めて、毎日のように馬と接することで、責任感と命の大切さを再認識できました。

私は2年生、3年生と2年連続で富士山麓の御殿場市で開催されたインターハイに出場しました。初めて出場した大会では、残念ながら1回戦グループ2位で負けてしまいました。この悔しさを来年に活かそうと思い、3年間の集大成を発揮できるよう、今年のインターハイに挑みました。開会式には佳子内親王が臨席され、試合もご覧になりました。昨年の反省を活かし、挑んだ試合は勝ち上がることが難しく、残念ながらグループ2位で負けてしまいました。乗馬部で頑張った3年間がこれで終わったのかと思うと、昨年の先輩方の思いが胸に込み上げてきて、悔しかったです。

今年こそは予選通過と思っていた目標は達成できませんでした。しかしこの大会を見て刺激を受けた後輩たちが、足りなかったことを見つけ、目標を達成してくれると信じています。今後も乗馬部を、応援よろしくお願いします。



音楽科50周年記念演奏会を終えて

去る7月29日(土)、栄の愛知県芸術劇場コンサートホールにて、音楽科の開校50周年を記念した演奏会が行われました。1年ほど前から準備を始め、いろいろと困難な場面もありましたが、なんとか乗り切り当日を迎えました。学校をあげて舞台設営や受付対応の準備に取り組みました。その甲斐もあつてか、1,400名を超えるお客様にお越しいただきました。特別ゲストの藤田六郎兵衛氏(能笛奏者)、石川祐支氏(札幌交響楽団首席チェロ奏者)の両卒業生にも、その素晴らしい演奏で花を添えていただき、現役生徒と卒業生、教員エキストラを含め一〇〇名余りの特別オーケストラ合唱団による感動的な演奏会となりました。これまで準備に関わってこられた関係者の皆様、そして当日会場にお運び頂いた保護者や中学校関係の方々、卒業生を始めとしたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

(音楽科主任／鍋木 勇樹)

音楽科



「ああ、もうやめたい」
今年の7月、音楽科は愛知県芸術劇場コンサートホールで50周年記念演奏会を開かせていただきました。そこで今回「主幹」という役割だった私は何度もそう思いました。しかし本番を振り返ってみると、素晴らしいステージだったな、と思います。あんなに素敵なホールでオーケストラに伴奏してもらってパフォーマンスができたことをとても嬉しく思っています。また、卒業生の藤田六郎兵衛さんと石川祐支さんに演奏していただき、とても豪華なステージとなりました。

私はこの舞台を通して「頑張ることの大切さ」を学びました。舞台は一人だけで作るものではありません。それは出演者だけでなく、会場を貸してくださった方や舞台のセッティングをしてくださった方々、聴きに来くださった皆さんがいてのことです。これからは、みんなが声をかけてくれた時「大丈夫」ではなく「ありがとう」と頼ることができるようになることも学びました。

50周年記念行事を終えて

312

下村

留維(武豊町立豊田中学校出身)

アンサンブル演奏会

「楽しむこと」が大切なこと

312

中村

仁美(桑名市立昭和中学校出身)

高校生最後のアンサンブル演奏会では、初めてヴァイオリンとクラリネットのデュオをやらせていただきました。今まで弦楽器とアンサンブルをしたことがなく、きちんと合わせられるか不安でした。今回演奏した曲は元々ヴァイオリンとヴィオラの為のデュオ曲でヴィオラのパートをクラリネットに書き換えたので音域が低く、モーツァルト特有の軽さを出すには苦労しました。練習ではバンスや表現が難しく最初は苦労しました。しかし、ペアの子と「楽しんで、遊んで演奏しよう。」と決めてから、曲の良い方向に作りあげていくことができました。

リハーサルでは強弱の変化が見えず音がばやけていると指摘され、本番までの間はそこで頭がいっぱいになりました。しかし本番前に「一緒に楽しもうね」と声を掛け合ったおかげで、心配が頭から消え、演奏を楽しむことができました。本番の演奏は完璧とはいえませんが、初めてチューニングの後に笑い合ってから始める

第49回 音楽科

卒業演奏会のお知らせ

2018年1月10日(水)
会場：三井住友海上 しらかわホール(伏見)
開場：18時00分(予定)
開演：18時30分(予定)

※例年と会場が異なりますのでご注意ください。

商業科

愛知県は職業資格の取得を通して、技術・技能の習熟、目的意識をもって充実した学校生活を送り、将来にわたる豊かな職業生活を営むことを目的とした技術認定制度があります。

本校からも日頃の学びの成果が実り、商業科3年生を中心に66名の生徒に対し、愛知県知事から「職業教育技術顕彰」が授与されました。

顕彰が授与されたことに自信を持ち、これからも学びに対し真摯に取り組んでもらいたいものです。

(商業科主任／伊吹 酬平)

★愛知県職業教育技術顕彰受領者

石神 稜大	市川 瑞希	小塚 慎之介	近藤 裕樹	藤井 樹
村橋 勇亮	柳原 翔	山下 樹輝	家田 果歩	稲山 静夏
大野 楓佳	大橋 いのり	桂 麗菜	可児 瑞穂	木澤 友香
木村 友香	熊澤 美奈	小島 美来	後藤 美紅	澤田 菜々香
菅沼 菜々花	鈴木 聖礼	鈴木 萌音	高手 麻衣	竹内 詩乃
中村 風沙	西部 晴香	服部 夕奈	花井 愛莉紗	羽地 凜
早川 琴	平松 杏梨	松本 紗矢音	森 華菜	青山 陽斗
沢穀 宏人	林 凌平	村上 瑛	森 顕人	安井 晃曜
山田 優一郎	米倉 源人	浅井 美乃	今福 麻友	淡河 恵美里
大澤 萌夏	大島 優里	岡本 怜佳	荻須 千尋	加藤 愛梨
金城 ステラ ユキコ		川岸 ゆい	栗木 祐奈	小林 莉子
澤木 麻衣	沢田 亜美	田中 あい	柘植 香苗	徳武 貴穂子
西澤 来佑梨	古里 愛	前田 菜那	溝口 颯野	満村 あかり
村上 亜衣梨	山川 姫			

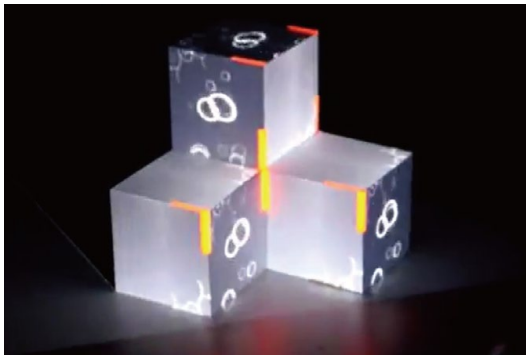
以上66名

デザイン特別講義、造形大



商業科では、2年次から自分の得意分野の能力を伸ばすため、会計・情報・ビジネス・デザインの4系列に分かれた課題研究(選択授業)を行っています。終業式翌週の7月24日、デザイン系列の選択授業で学ぶ2・3年生の生徒が姉妹校である名古屋造形大学でデザイン特別講義を受講しました。

名古屋造形大学メディアデザインコースの先生や学生たちと一緒に指導していただきながら、プロジェクトマップニングの作品作りに挑戦しました。



10センチ四方の白い立方体をピラミッド状に組み合わせ、その面に光を投影することで立体的な作品が生まれます。

高校の授業では扱うことのないソフトウェアの扱い方の説明と制作作業の合計約2時間で、各自15秒程度の作品を作ることができました。

コンピュータの画面上では平坦だった映像を、実際に立方体に投影すると、想像以上の出来栄に生徒達は感動していました。

(商業科/城所 幸子)

オーストラリアホームステイ



8月4日からの18日間、21名の生徒と引率教員2名で、本校の提携校であるオーストラリア・サンシャインコーストのUnity Collegeで語学研修とホームステイプログラムを実施してきました。

現地ではネイティブの先生による英語レッスンはもちろん、日本語を勉強しているオーストラリアの高校生と交流する時間もたくさんあり、両国の生徒たちの笑顔があふれる楽しい時間でした。数百人のオーストラリアの高校生を前に、一人ずつ英語で自己紹介をして一発芸を披露するという集会などもありましたが、全員が立派にやり遂げてたくさんの方の拍手を頂くことができました。引率教員として生徒達の事を誇りに思います。

準備期間も含めると数か月にも及ぶこのプログラムを通じて、生徒たちは貴重な経験と外国の家族を手に入れました。英語力が足りず、大好きな人に伝えたいことが伝えられなかった、あのもどかしさを忘れずにこれからも英語を勉強し続けて欲しいと思います。

(国際交流委員会／嶋崎 雄一朗)



ある日は何を聞かれているのかわからなくて、“yes”と答えたら、家の近くのビーチに連れて行かれました。日本にはないのびのびした空気でした。冬でもとても暖かく、少し泳いで、2時間ほどビーチを散歩しました。オーストラリアの人は皆人柄がよく、散歩しているとたくさんの人に話かけられました。海や登山やキャンプにアスレチックと、私の家はとてもアクティブでたくさんの自然と触れあいました。言葉はなかなか通じないけれど、毎日がすごく楽しかったです。

ホームステイ5日目くらいから少しずつ言葉が聞き取れ、英語が理解できるようになりました。返す言葉のレパートリーも少しずつ増え、簡単に会話ができるようになっていきました。易しい英語で話してくれたファミリーに感謝しています。

お別れの一日前の夜、ファミリーがアルバムをくれました。うれしくて、お別れしたくなくて、涙が止まりませんでした。その時、自分の気持ちを言葉で伝えることができました。

出発の朝、私は一人でビーチに行きました。砂浜にファミリーへのメッセージを書いて写真に撮りました。散歩をしているおじさんがいたので、自分から挨拶をしました。とても優しい人で、20分くらいその場で会話をしました。最初の頃を思うと、私の積極性と英会話力は信じられないくらいに成長したと思います。オーストラリアに来てよかったです。



信じられないくらい成長できた

310 家田 果歩 (清須市立新川中学校出身)



私は英語の成績もありよくないし、コミュニケーションをとるのも得意ではないので、不安でいっぱいでした。外国人は結構グイグイくるイメージだったので、行きの飛行機で「積極性を身につける」という目標を立てました。

ブリスベンに着いてユニティ・カレッジまでバスで1時間かけて行きました。ユニティ・カレッジに着いて、体育館で自分のファミリーになる人たちの迎えを待ちました。すぐドキドキして言いたいことを頭の中で何度も繰り返しました。10分くらいして私のホストファミリーが来て、私の名前が呼ばれました。あれだけ頭の中で繰り返していた台詞は忘れてしまって、“Hello”しか言えませんでした。3人で車に乗り、家に向かいました。当たり前ですが、すべてが英語でした。びっくりするくらい速くて質問も何一つ答えられませんでした。不安いっぱい爆発するかと思いました。その日の夜は、電子辞書で使えるような表現をたくさん調べました。



次の日の朝、前夜に調べたことを使って朝の挨拶からあれこれ会話をしました。ホストシスターと2人で朝ご飯を作り、ホストマザーを入れて3人でご飯を食べました。私の家では、毎日ホストシスターと私でご飯を作りました。日本にはない食材を使って料理するのは楽しかったです。



夏と言えば…サマーセミナー！



「愛知サマーセミナー」が2009年以来、8年ぶりに同朋高校で開催されました。これまで同朋にて3回開催しましたが、年々規模が大きくなっていくサマーセミナー。果たして今回は会場校としての役割を十分に果たせるだろうかという不安が頭をよぎる4月初旬でした。とは言え、「不安ばかり口にしても何も進まない。とにかくボランティアスタッフ集めよう！」と普段父母懇で活躍されている保護者を始め、PTAなど様々な会合で呼びかけをしました。ありがたいことに、本当に多くの方々がその呼びかけに答えてくださいました。当日は保護者、生徒、OB保護者・生徒、教員がサマー運営スタッフとして汗をぬぐいながら本当に頑張りました。その結果2000講座、来場者6万人強の第29回目のサマーセミナーを成功に導く一翼を担うことができました。ある保護者の「サマーセミナーを通して同朋のあったかい繋がりができた」という言葉を聞いた時、引き受けて良かったと思えました。皆さま本当にありがとうございました。

(サマーセミナー実行委員会事務局／林 雄二)

地域懇談会を終えて

同朋高校の地域懇談会は学校、先生、保護者、生徒、そして卒業生とその親御様まで幅広い方々の協力を得て成り立っています。各地域で話し合われた意見、質問、要望などを聞かせていただける機会があることを嬉しく思います。

各地域では、いろいろな取り組みをしていて、生徒と一緒に楽しむ企画や、プチ授業、じつくりと一人ひとりのお話を聞くなどそれぞれに特色があります。ご自分の地域以外のところに参加された方もおり、「他地域にも参加してみたい」と思われる方、喜んでお待ちしています。

地域懇談会コースで、地域懇談会の企画予定、また終わった後にも内容についての発信をしておりまます。お子さんが持つてくる水色の紙は地域懇談会からのお知らせなので、ぜひ読んでいただきたいです。少しでも「参加してよかったな」「来年も行こうかな」とたくさんの方に思ってもらえるようにしていきます。

みなさまからの意見は、11月18日のオープンフォーラムへと反映されていきます。日頃の授業を公開する取り組みも、地域懇談会からの意見が反映された意見の結果です。ぜひ、オープンフォーラムへのご参加もよろしくお願ひします。

(PTA地域懇談委員長／柳原 侑味)

PTA研修バスツアー

今年は三重県伊勢市で研修しました

8月27日に、81名の参加者を乗せて、三重県伊勢市に研修に出かけました。バス内ではクイズ形式で伊勢神宮の歴史や文化を学び、外宮・内宮の正宮を全員で訪ねました。日差しも強く暑い日ではありましたが、神宮に生い茂る木々の力により、清らかな空気をたっぷり吸い込み、心が洗われるようだったといった感想を残された参加者もおいでです。

懇親会を兼ねた昼食では、ふんだんな三重の海の幸山の幸を中心とする会席料理を口にしました。食事をとりながら語られ、学校や生徒の様子が伝わりました。生方から語られ、学校や生徒の様子が伝わりました。

バスを降りるときには、「子供は卒業しますが、来年度以降も参加したいほどの研修でした」「初めて研修に参加したのですが、こんなに楽しい研修だった。昨年から参加すればよかったと後悔しています」など、たくさん言葉をいただきました。

PTA研修旅行に向け、PTA文化委員のみなさんには企画・準備・運営と丁寧な仕事をいただきました。おかげで非常に高い満足度をいただく研修を行うことができました。紙面を持ちまして、御礼申し上げます。

文化委員会は、すでに来年度の研修旅行に向け計画を進めています。1・2年生の保護者の方は、ぜひ来年度の研修旅行の参加を検討いただければ幸いです。

(PTA文化委員長／野田 悦子)